

1日人間ドック（基本コース）の検査項目の説明

身体計測	身長と体重を計測して標準体重、肥満度、BMIを算出します。腹囲を測定します。		BMI判定 18.4以下（低体重） 18.5～24.9 25.0以上（肥満）		要注意 基準範囲 要注意	
	標準体重（kg）＝ 身長（m）× 身長（m）× 22					
	BMI（kg/m ² ）＝ 実測体重（kg） 身長（m）× 身長（m）					
	肥満度（％）＝ （ 実測体重（kg）－ 標準体重（kg） ）× 100 標準体重（kg）					
腹囲判定基準値：男性：84.9cm以下 女性：89.9cm以下						
生理検査	血 圧 測 定	血圧を2回測定してその平均値をみます。	収縮期血圧（mmHg） 拡張期血圧（mmHg） 129以下 84以下 130～159 85～99 160以上 100以上			基準範囲 要注意 要医療
	心 電 図	心臓におこっている現象を捉えることができる迅速で簡便な検査です。不整脈や心筋の異常などをみることを目的としています。				
	心 拍 数	1分間の心臓の拍動数を調べる検査です。				
	視 力 検 査	眼の病気がないのに0.6以下の場合は、近視・乱視が疑われます。				
	眼 底 検 査	眼底の視神経や血管の状態を調べる検査です。				
	眼 圧 検 査	緑内障など眼圧に関する病気の早期発見に役立ちます。				
	聴 力 検 査	日常会話に必要な会話域聴力の指標や騒音性、老人性難聴などを早期に診断することが目的です。1000Hz（低い音）、4000Hz（高い音）につき測定します。				
	呼 吸 機 能 検 査	空気を大きく吸って、精一杯はくことを行います。肺の換気機能を測定する検査です。自覚症状をとまなわない段階での肺気腫や気管支喘息、間質性肺炎などの疾患の早期発見に役立ちます。				
胸 部 X 線	肺結核や肺がん、肺炎などを示唆する結節影や腫瘤影、空洞影、浸潤影などがいないかを調べる検査です。細かい病変については、CT検査の方が精度高いです。					
上 部 消 化 管 X 線	バリウムを飲むことにより、食道、胃、十二指腸の病変の有無を観察します。細かい病変の発見には、内視鏡の方が向いています。					
上 部 消 化 管 内 視 鏡	内視鏡を口または鼻から挿入することにより、食道、胃、十二指腸の病変の有無を観察します。					
腹 部 超 音 波	肝臓、胆のう、膵臓、脾臓、腎臓、腹部大動脈について超音波（エコー）で確認します。腸管ガスや脂肪の影響などで特に膵臓などは見えにくいことがあります。					
便 潜 血 検 査	陽性の場合は、消化管からの出血を疑います。陽性の場合は、精密検査を受けてください。					
尿 検 査	尿 蛋 白	腎臓の障害により尿蛋白が増えます。腎炎、糖尿病性腎症などが考えられます。				
	尿 糖	陽性の場合は、糖尿病の疑いがあります。				
	尿 潜 血	腎臓や尿管、膀胱などの尿の通り道の病気の有無の検査です。生理中の女性は健康でも陽性になります。				
	尿 比 重	高値では脱水、ネフローゼ症候群、糖尿病など、低値では、尿崩症や腎不全を疑います。				
	尿 沈 渣	尿の沈殿物を調べて主に腎臓や尿路の病気の有無を調べます。				

血液学検査	白血球数	高値あるいは著しい低値は、感染症や血液の病気が疑われます。
	赤血球数 血色素 ヘマトクリット	低値は貧血が疑われます。
	血小板数	血液中の血液を固める成分です。減少すると出血が止まりにくくなります。
生化学検査	総たんぱく	血液中の総たんぱくの量を示します。低値は栄養障害、ネフローゼ症候群など、高値は、多発性骨髄腫、慢性炎症、脱水が考えられます。
	アルブミン	血液中のタンパク質の1つで最も多く含まれています。減少は、栄養不良、肝硬変など考えられます。
	クレアチニン	アミノ酸の一種であるクレアチンが代謝されたあとの老廃物です。腎臓でろ過されて尿中に排泄されます。筋肉量が多いほどその量は多くなるため、基準値に男女差があります。高値になると腎臓の働きが悪くなっていることが考えられます。
	e G F R	低値を示すと腎臓の働きが悪くなっていることが示唆されます。
	尿酸	たんぱく質の一種であるプリン体という物質が代謝されたあとの残りです。高値の場合は、高尿酸血症であり高値がつづくとう節節痛をおこす痛風になることがあります。
	総コレステロール	血液に含まれる脂質です。ホルモンなどをつくるうえで大切なものです。増えすぎると動脈硬化を進め、心筋梗塞などにつながります。
	HDLコレステロール	低値は、動脈硬化の原因になります。善玉コレステロールです。
	LDLコレステロール	悪玉コレステロールといわれています。高値は、動脈硬化の危険因子です。
	Non-HDLコレステロール	総コレステロールからHDLコレステロールを引いた値です。
	中性脂肪	体内の中でもっとも多い脂肪で糖質がエネルギーとして脂肪に変化したものです。肥満やアルコール多飲で上昇します。数値が高いと動脈硬化を進行させます。低いと低栄養などが疑われます。
	G O T	心臓、筋肉、肝臓に多く含まれる酵素です。GOTのみの上昇は、心筋、筋肉の異常を疑います。
	G P T	肝臓に多く存在する酵素です。肝炎、脂肪肝などのときに上昇します。
	γ - G T P	肝臓や胆道に異常があると数値は上昇します。アルコール多飲や胆石、肝障害で上昇します。
	A L P	胆石などの胆道系の閉塞や肝障害などのときに高値になります。骨の成長期には、高値になります。
	空腹時血糖	空腹時の血液中のブドウ糖のことで、エネルギー源として全身に利用されます。ブドウ糖がエネルギー源として適切に利用されているかがわかります。数値が高い場合は、糖尿病、ホルモン異常などが考えられます。
血清学検査	H b A 1 c	1～2ヶ月前の血糖の平均的な状態を反映します。高値だと糖尿病の状態がよくないことを示します。
	C R P	体のなかで炎症がおきてないかどうかを調べる検査です。高値は、感染症、自己免疫疾患などが疑われます。
H B s 抗原		B型肝炎ウイルスに感染しているかどうかを調べます。
問 診		特定健診での問診項目22項目を含む問診で身体の状態や生活習慣などをうかがいます。
医 師 診 察		胸部の聴診や腹部の触診などで異常の有無を診察します。
結 果 説 明		結果を郵送でご報告いたします。なお、2～3週間後以降に来院いただければ、医師が結果説明をいたします。
保 健 指 導		当院では管理栄養士から脂質異常症、高血圧、耐糖能異常・糖尿病、高尿酸血症・痛風、肝機能異常などの方に食事・栄養の指導を受けることができます。